平成 24 年 7 月 10 日

各　位

会　社　名　株式会社ジャステック
代表者の役職名　代表取締役社長　中谷　昇
（コード番号 9717　東証第一部）
問い合わせ先　取締役常務執行役員
総務経理本部本部長　柴山　泰生
T　E　L　０３－３４４６－０２９５（代表）

CMMI（能力成熟度モデル統合）Version 1.3 でレベル5達成

株式会社ジャステックは、全社を対象にソフトウェア開発プロセスの能力成熟度を評価する国際標準的な指標であるCMMI（能力成熟度モデル統合）（注1）の Version 1.3）において、改めて、最高レベルであるレベル5を達成していることが確認されました。 2003年に Version 1.1 で日本初の全社レベルでの達成後、3度目となります。 その詳細は以下のとおりです。

1．達成内容

米国カーネギーメロン大学のソフトウェア工学研究所（略称SEI）認定のSCAMPI（注2）リードアプレイザを中心としたアプレイザルチームによりCMMI「連続表現」による正式アプレイザル（評定）を実施し、その結果、成熟度レベル5を達成しました。

『 高成熟度のプロセスエリア（4PA）を含む全てのプロセスエリア（22PA）において、能力レベル3を達成したことにより成熟度レベル5を達成 』

［参照モデル］
CMMI-DEV Version 1.3 連続表現
［アセスメント手法］
SCAMPI Version 1.3
［アセスメント範囲］
対象プロセスエリア：22個
対象組織範囲　：総務経理部門、営業部門を除く全ての部門
［評定日］
2012年5月25日

2. 今後へ向けて

当社は、会社設立当初より「ソフトウェアの量と品質による価格の設定」の確立とソフトウェア市場の健全化を目指し取り組んで参りました。 その結果、これまで、当社独自のソフトウェア生産管理システムを構築し、1996年には、生産管理システムをベースにISO9001による品質マネージメントシステムを構築しました。(2001年にISO9001:2000年改訂へ移行) その後、更なるプロセス改善を目指し、ISO9001へのCMMIの融合に取り組み、2003年にCMMI成熟度の最高レベルであるレベル5を達成し、この度、2008年のバージョンアップ(V1.2)に引き続き、2011年のバージョンアップ(V1.3)においても再度レベル5が確認されました。

当社は今後も、この仕組みを有効活用し、継続的にプロセス改善を進め、より良い製品をお客様にご提供することで顧客満足度及び社員の満足度の向上を図り、更には、ソフトウェア業界の健全化に取り組んで参ります。

(注1) CMMI(Capability Maturity Model Integration)

CMMIは、米国のカーネギーメロン大学のソフトウェア工学研究所が開発したプロセス成熟度モデル。初めに開発されたSW－CMM(Capability Maturity Model for Software)は、ソフトウェア開発を行う組織の能力レベル(成熟度)を5段階の段階的なStagedモデルで評価するものになっている。SW－CMMの利用が拡大する一方で、様々な分野に適用できるよう派生的なモデルが開発されたため、それらを統合すること及び ISO/IEC 15504 との互換性を考慮したモデルとしてCMMIが開発された。

(注2)SCAMPI

SCAMPI(Standard CMMI Appraisal Method for Process Improvement)とは，CMMIモデルを使用して、ベンチマークを目的とした厳密な評定を行うためにSEIが開発した手法。

*CMMI は、カーネギーメロン大学のサービスマークです。
*SCAMPI は、カーネギーメロン大学のサービスマークです。

以上